

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護の基本Ⅰ	講義	15	30	4	1	前期 (通年)	月曜	2限	必修	齊藤 晋助

[科目のねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と姿勢を養う学習とする。

[科目の概要]

介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。

[到達目標]

①複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉士を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できるようになる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」(中央法規)
- ②最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」(中央法規)

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション 授業内容の説明	9	尊厳を支える介護
2	「介護」の成り立ち①	10	尊厳を支える介護
3	「介護」の成り立ち②	11	介護福祉の基本理念である尊厳を支える介護
4	専門職による「介護」が誕生した社会的背景と課題	12	QOLとノーマライゼーションの捉え方
5	「介護」の概念の変遷①	13	介護福祉の基本理念である自立を支える介護(自立支援、利用者主体)
6	「介護」の概念の変遷②	14	介護福祉士の活動の場と役割(看取りケア)
7	身体拘束①	15	授業振り返り(テスト)
8	身体拘束②	特記事項	

評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	60%	30%	/	/	10%	

[教員実務経験]

介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、施設における事例を取り上げながら、尊厳を支える介護やノーマライゼーション、介護問題の背景等について講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護の基本Ⅰ	講義	15	30	4	1	後期 (通年)	月曜	1限	必修	齊藤 晋助

[科目のねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と姿勢を養う学習とする。

[科目の概要]

介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。

[到達目標]

- ①地域や施・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できるようになる。
- ②介護福祉の専門性と倫理、介護福祉士に求められる専門職としての姿勢を理解できる。
- ③ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」(中央法規)
- ②最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」(中央法規)

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	災害と介護福祉士の役割	9	日本介護福祉士会倫理綱領
2	社会福祉士及び介護福祉士法の概要	10	障害者の理解①
3	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	11	障害者の理解②
4	介護福祉士養成カリキュラムの変遷 介護福祉士を支える団体	12	ICFの考え方(エンパワメント、ストレングス)
5	介護にたずさわる人がもつべき職業倫理	13	リハビリテーションと介護福祉
6	「介護の倫理」の実践と「尊厳ある介護実践」	14	介護予防
7	高齢者虐待と生命倫理	15	授業振り返り(テスト)
8	認知症ケア	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	60%	30%	/	/	10%	

[教員実務経験]

介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、高齢者虐待が起こる原因の事例を取り上げながらその解決方法の見出し方、介護福祉士に必要な倫理観等について講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護の基本Ⅱ	講義	15	30	4	1	前期 (通年)	月曜	1限	必修	町田 晴美

[科目のねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と姿勢を養う学習とする。

[科目の概要]

介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。

[到達目標]

- ①介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりを理解できる。
- ②介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマル・インフォーマルな支援を理解できる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」(中央法規)
- ②最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」(中央法規)

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	導入 授業内容の説明	9	家族介護者の理解と支援
2	生活とは何か(個別性と多様性の理解)	10	高齢者のためのフォーマルサービスの概要
3	生活の要素と特性	11	障害者のためのフォーマルサービスの概要
4	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	12	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係
5	介護福祉を必要とする障害者の暮らし	13	インフォーマルサービスの種類
6	「その人らしさ」の理解と支える介護	14	介護福祉士に求められる支援の視点
7	「生活ニーズ」の理解	15	授業振り返りとまとめ
8	生活のしづらさの理解とその支援	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	70%	5%	/	/	25%	

[教員実務経験]

高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、現代における社会状況や介護サービスの特性について講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護の基本Ⅱ	講義	15	30	4	1	後期 (通年)	金曜	3限	必修	町田 晴美
[科目のねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と姿勢を養う学習とする。										
[科目の概要] 介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。										
[到達目標] ①介護を必要とする人の生活を支援するという観点から多職種連携や地域連携について理解できる。 ②多職種協働の実践のために、保険・医療・福祉に関する他職種の専門性と役割・機能を理解できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	地域連携の意義と目的					9	保健・医療・福祉職の役割と機能 (社会福祉士・介護支援専門員)			
2	地域連携に関わる機関の理解					10	保健・医療・福祉職の役割と機能 (医師・歯科医師・看護師・保健師)			
3	利用者を取り巻く地域連携の実際					11	保健・医療・福祉職の役割と機能 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)			
4	多職種連携・協働とは					12	保健・医療・福祉職の役割と機能 (栄養士・歯科衛生士・臨床心理士・薬剤師)			
5	多職種連携・協働を要請する社会の動き					13	多職種における地域での連携・協働			
6	多職種連携・協働が必要な理由と阻害要因					14	自立支援介護における多職種連携の実際			
7	多職種連携・協働のためのチームづくり					15	授業振り返りとまとめ			
8	多様な視点と受容を必要とする協働					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	70%	5%			25%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験70% 小テスト5% 課題25%				
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、多職種の役割と機能、地域連携と多職種連携について講義する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護の基本Ⅲ	講義	15	30	4	2	前期 (通年)	月曜	1限	必修	齊藤 晋助

[科目のねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と姿勢を養う学習とする。

[科目の概要]

介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。

[到達目標]

- ①介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解し、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようになる。
- ②介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようになる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」 (中央法規)
- ②最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 (中央法規)

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	介護福祉士の責務と安全の確保	9	生活の質と安全の確保③
2	生活の質と安全の確保①	10	生活の質と安全の確保④
3	生活の質と安全の確保②	11	介護実践におけるリスクマネジメント (実技・演習)
4	介護の場におけるセーフティマネジメント	12	介護実践におけるリスクマネジメント (実技・演習)
5	尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント	13	危険予知訓練① (個人ワーク)
6	福祉施設のリスクの特徴とヒューマンエラー	14	危険予知訓練② (グループワーク・発表)
7	福祉サービスに求められる安全・安心	15	授業振り返り (テスト)
8	事故防止のための安全対策	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	60%	30%	/	/	10%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験60% 小テスト30% 課題10%

[教員実務経験]

介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、自立に向けた暮らしを支えるための介護における安全な暮らしの確保とリスクマネジメントについて講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護の基本Ⅲ	講義	15	30	4	2	後期 (通年)	木曜	1限	必修	齊藤 晋助

[科目のねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と姿勢を養う学習とする。

[科目の概要]

介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。

[到達目標]

- ①介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解し、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できる。
- ②介護従事者が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」（中央法規）
- ②最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」（中央法規）

[授業外学習]

教科書を読んで予習と復習を行うこと
専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容			
1	感染予防の基礎知識と技術	9	介護労働の特性と健康問題			
2	生活の場における感染症対策①	10	ストレスとこころの健康			
3	生活の場における感染症対策②	11	こころの病気			
4	個別の感染症対策①	12	職場で取り組むこころの健康管理			
5	個別の感染症対策②	13	身体の健康管理			
6	安全な薬物療法を支える視点・連携	14	労働環境の整備			
7	労働基準法と労働安全衛生法	15	授業振り返り（最終課題）			
8	労働安全と環境整備 (労災、出産・育児・介護にかかわる法制度)	特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
		50%			50%	

[教員実務経験]

介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、介護従事者自身の心身の健康と介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者	
コミュニケーション技術Ⅰ	講義	15	30	2	1	後期 (半期)	金曜	2限	必修	齊藤 晋助	
[科目のねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。											
[科目の概要] コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶ基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。											
[到達目標] ①本人の状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するコミュニケーションの基本的な技術が身につく。 ②家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術が身につく。											
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」 (中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること					
回数	授業内容					回数	授業内容				
1	オリエンテーション 授業内容の説明					9	言語コミュニケーション				
2	介護におけるコミュニケーションの意義と目的					10	言語以外を使ったコミュニケーション				
3	コミュニケーションの果たす役割					11	動機づけ				
4	介護福祉職のコミュニケーション支援の対象					12	ものの見方に変化を生み出す技術				
5	援助関係の特徴					13	意思決定を支援するためのコミュニケーション				
6	援助関係を構築するための原則					14	集団におけるコミュニケーション技術				
7	コミュニケーション態度に関する基本技術①					15	授業振り返り（テスト）				
8	コミュニケーション態度に関する基本技術②					特記 事項					
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準					
	60%	20%			20%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験60% 小テスト20% 課題20%					
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、介護福祉士に必要な高齢者や障害者等とのコミュニケーションの技術について講義する。											

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
コミュニケーション技術II	講義	15	30	2	2	前期 (半期)	月曜	2限	必修	町田 晴美
[科目のねらい] 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。										
[科目の概要] コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶ基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。										
[到達目標] ①障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につくようになる。 ②情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解できる。										
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」 (中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	コミュニケーション障害への対応の基本					9	家族への助言・指導・調整 家族関係とストレスへの対応			
2	視覚障害のある人への支援 聴覚障害のある人への支援					10	チームのコミュニケーションとは			
3	構音障害のある人への支援 失語症の人への支援					11	報告・連絡・相談の技術			
4	認知症の人への支援					12	記録の技術			
5	うつ病・抑うつ状態の人への支援 統合失調症の人への支援					13	会議・議事進行・説明の技術			
6	知的障害のある人への支援 発達障害のある人への支援					14	事例検討に関する技術			
7	高次脳機能障害のある人への支援 重症心身障害のある人への支援					15	授業振り返りとまとめ			
8	家族との関係づくり					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	100%					試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%				
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、障害の特性に応じたコミュニケーションの知識・技術及びチームのコミュニケーションについて講義する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅰ-① (生活支援・居住環境)	講義	15	30	2	1	前期 (半期)	水曜	2限	必修	齊藤 晋助
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①生活の豊かさや心身の活性化、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できるようになる。										
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」 (中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	生活支援の基本的な考え方					9	快適な室内環境②			
2	生活支援と介護過程 (ICFにもとづく生活支援) ①					10	安全に暮らすための生活環境①			
3	生活支援と介護過程 (ICFにもとづく生活支援) ②					11	安全に暮らすための生活環境②			
4	生活支援とチームアプローチ					12	高齢者・障害者の住まい①			
5	住まいの役割と機能					13	高齢者・障害者の住まい②			
6	生活空間①					14	居住環境の整備における多職種との連携			
7	生活空間②					15	授業振り返り (テスト)			
8	快適な室内環境①					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	60%	20%			20%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験60% 小テスト20% 課題20%				
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が生活支援の基本的な考え方、居住環境について講義する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅰ-② (家事・応急手当・災害)	講義	15	30	4	2	前期 (通年)	火曜	2限	必修	町田 晴美
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた家事の介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようになる。 ②生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できるようになる。										
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」 (中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	導入 授業内容の説明					9	裁縫 衣類・寝具の衛生管理①			
2	自立した家事とは					10	裁縫 衣類・寝具の衛生管理②			
3	調理の介護（講義）					11	買い物 家庭経営、家計の管理①			
4	調理の介護（講義）					12	買い物 家庭経営、家計の管理②			
5	調理の介護（演習）					13	家事の介護における多職種との連携①			
6	調理の介護（演習）					14	家事の介護における多職種との連携②			
7	洗濯					15	授業振り返りとまとめ			
8	そうじ・ごみ捨ての介助					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	100%					試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%				
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、自立に向けた家事の介護について基礎的な知識・技術を講義する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者	
生活支援技術Ⅰ-② (家事・応急手当・災害)	講義	15	30	4	2	後期 (通年)	火曜	1限	必修	町田 晴美	
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。											
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、応急手当や災害時の支援について基礎的な知識・技術を学ぶ。											
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につくようになる。 ②応急手当や災害時における介護福祉士の役割や生活の継続という視点からの災害支援の基礎的な知識と技術が身につくようになる。											
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」 (中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること					
回数	授業内容					回数	授業内容				
1	応急手当の事故と予防の観点					9	災害時における生活支援（自分自身の自立）				
2	応急手当とは					10	災害時における生活支援（活動の中止）				
3	応急手当の実際（外傷）					11	災害時における生活支援（支援者としてのあり方）				
4	応急手当の実際（骨折）					12	災害時における生活支援（介護福祉士が被災した場合）				
5	応急手当の実際（窒息）					13	災害時における生活支援（被災地における活動場所）				
6	応急手当の実際（熱傷）					14	災害時における生活支援（まとめ）				
7	災害時における生活支援 (生活支援の重要性)					15	授業振り返りとまとめ				
8	災害時における生活支援 (現場の状況)					特記 事項					
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準					
	60%	40%				試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験60% 小テスト40%					
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、災害時における介護福祉士としての生活支援について講義する。											

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅱ-① (移動・福祉用具)	演習	15	30	2	1	前期 (通年)	火曜	1.2限	必修	松田 拓央 齊藤 晋助
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた移動の介護及び福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための移動の介護の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につく。 ②介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ③最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	オリエンテーション 介護実習室の使い方					9	体位変換の介助(仰臥位から側臥位)			
2	ベッドメイキング①					10	体位変換の介助(スライディングシート活用)			
3	ベッドメイキング②					11	体位変換の介助(起き上がりから端座位)			
4	移動動作の基礎となっている理論					12	体位変換の介助(端座位から立位)			
5	ボディメカニクス					13	安楽な姿勢・体位を保持する介助			
6	移動・移乗の介助における基本的な視点					14	授業振り返りとまとめ			
7	体位変換の介助(上方移動)					15	実技試験			
8	体位変換の介助(水平移動)					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	100%	/	/	/	/	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100% ※定期試験の前に実技試験あり。実技試験合格者のみ筆記試験の受験可。				
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長、小規模多機能型居宅介護事業所の管理者を務めた。移動の介護における基本的な知識と技術について講義する。(松田)										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者	
生活支援技術Ⅱ-① (移動・福祉用具)	演習	15	30	2	1	後期 (通年)	火曜	1.2限	必修	松田 拓央 齊藤 晋助	
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。											
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた移動の介護及び福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。											
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための移動の介護の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につく。 ②介護ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。											
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ③最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること					
回数	授業内容					回数	授業内容				
1	車いすの基本的な使い方・移動の介助					9	車いすからベッドへの移乗の介助(スライディングボード活用)				
2	歩行の介助①					10	車いす、ベッド間の移乗の介助(スライディングボード活用)				
3	歩行の介助②					11	車いすからベッドへの移乗の介助(移乗用リフト)				
4	ベッドから車いすへの移乗の介助①					12	移動の介護における多職種との連携				
5	ベッドから車いすへの移乗の介助②					13	福祉用具の意義				
6	車いすからベッドへの移乗の介助①					14	授業振り返りとまとめ				
7	車いすからベッドへの移乗の介助②					15	実技試験				
8	ベッドから車いすへの移乗の介助(スライディングボード活用)					特記事項					
評価方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準					
	100%	/	/	/	/	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100% ※定期試験の前に実技試験あり。実技試験合格者のみ筆記試験の受験可。					
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長、小規模多機能型居宅介護事業所の管理者を務めた。移動の介護及び福祉用具における基本的な知識と技術について講義する。(松田)											

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅱ-② (食事・排泄)	演習	15	30	2	1	前期 (通年)	金曜	1.2限	必修	町田 晴美 齊藤 晋助
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた食事・排泄の介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための食事・排泄の介護の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につく。 ②福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	自立した食事とは					9	ベッド上で行う食事の介助②			
2	食事の介助を行うにあたって					10	誤嚥の予防のための支援①			
3	自助具の種類と活用					11	誤嚥の予防のための支援②			
4	介護の基本原則にのっとった食事の介護①					12	利用者の状態・状況に応じた食事の介護			
5	介護の基本原則にのっとった食事の介護②					13	食事の介護における多職種との連携			
6	食卓で行う食事の介助①					14	授業振り返りとまとめ			
7	食卓で行う食事の介助②					15	実技試験			
8	ベッド上で行う食事の介助①					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	70%	5%	/	/	25%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験70% 小テスト5% 課題25% ※定期試験の前に実技試験あり。実技試験合格者のみ筆記試験の受験可				
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、食事と排泄の介護における基本的な知識と技術について講義する。(町田)										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅱ-② (食事・排泄)	演習	15	30	2	1	後期 (通年)	火曜	3.4限	必修	太田 遼 齊藤 晋助
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた食事・排泄の介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための食事・排泄の介護の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につく。 ②福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	自立した排泄とは					9	頻尿、便失禁、便秘、下痢、便失禁への対応			
2	トイレでの排泄の介助方法①					10	導尿の介助 座薬・浣腸の挿入の介助 ストーマがある場合の介助			
3	トイレでの排泄の介助方法②					11	排泄の介護における多職種との連携			
4	ポータブルトイレでの排泄の介助方法①					12	利用者の状態・状況に応じた排泄の介護			
5	ポータブルトイレでの排泄の介助方法②					13	授業振り返りとまとめ			
6	尿器・差し込み便器での排泄の介助①					14	実技試験			
7	おむつでの排泄の介助①					15	筆記試験			
8	おむつでの排泄の介助②					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	70%	5%	/	/	25%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験70% 小テスト5% 課題25% ※定期試験の前に実技試験あり。実技試験合格者のみ筆記試験の受験可				
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある講師が、食事と排泄の介護における基本的な知識と技術について講義する。(太田)										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅱ-③ (身じたく 入浴・清潔保持)	演習	15	30	2	1	前期 (通年)	金曜	1.2限	必修	齊藤 晋助 町田 晴美
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた身じたく及び入浴・清潔保持について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための身じたく及び入浴・清潔保持の介護の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につく。 ②福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	オリエンテーション 入浴実習室の説明 手洗いの演習					9	特殊浴槽(機械浴)を使用しての入浴①			
2	自立した身じたくとは					10	特殊浴槽(機械浴)を使用しての入浴②			
3	洗顔・整髪の手伝い					11	特殊浴槽(リフト浴)を使用しての入浴①			
4	ひげの手入れ・爪切りの手伝い					12	特殊浴槽(リフト浴)を使用しての入浴①			
5	口腔ケア					13	シャワー浴			
6	自立した入浴・清潔保持とは					14	実技試験			
7	入浴の介護(個浴)①					15	授業振り返り(テスト)			
8	入浴の介護(個浴)②					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	60%	/	/	20%	20%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験60% 発表20% 課題20% ※定期試験の前に実技試験あり。実技試験合格者のみ筆記試験の受験可。				
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、身じたく、入浴・清潔保持の介護における基本的な知識と技術について講義する。(齊藤)										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅱ-③ (身じたく 入浴・清潔保持)	演習	15	30	2	1	後期 (通年)	火曜	1.2限	必修	齊藤 晋助 町田 晴美
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた身じたく及び入浴・清潔保持について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための身じたく及び入浴・清潔保持の介護の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力が身につく。 ②福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択、活用する知識・技術を習得できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	衣服の着脱の介助①					9	手浴②			
2	衣服の着脱の介助②					10	足浴①			
3	衣服着脱の介助の実際①					11	足浴②			
4	衣服着脱の介助の実際②					12	浴室以外での洗髪			
5	身じたくの介護における多職種との連携					13	入浴・清潔保持の介護における多職種との連携			
6	清潔保持の介助(全身清拭・部分清拭)					14	授業振り返りとまとめ			
7	清潔保持の介助(陰部洗浄)					15	授業振り返り(テスト)			
8	手浴①					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
	60%	/	/	20%	20%	試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験60% 発表20% 課題20% ※定期試験の前に実技試験あり。実技試験合格者のみ筆記試験の受験可。				
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、介護課係長を務めた経験のある教員が、身じたく、入浴・清潔保持の介護における基本的な知識と技術について講義する。(齊藤)										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
生活支援技術Ⅱ-④ (睡眠、人生の最終段階における介護)	講義	15	30	2	2	後期 (半期)	金曜	1限	必修	岡山 勝子
[科目のねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
[科目の概要] ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、休息・睡眠、人生の最終段階における介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。										
[到達目標] ①健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解できる。 ②人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」(中央法規) ②最新介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明					9	人生の最終段階におけるアセスメントの視点			
2	休息・睡眠とは					10	死をむかえる人の介護 死をむかえた人の介護			
3	安眠を阻害する要因					11	亡くなったあとの介護 グリーフケア			
4	心地よい眠りを支える介護					12	人生の最終段階の介護における多職種との連携			
5	睡眠障害とその支援					13	終末期ケアについて①			
6	利用者の状況・状態に応じた休息・睡眠の介護					14	終末期ケアについて②			
7	休息・睡眠の介護における多職種との連携					15	授業振り返りとまとめ			
8	人生の最終段階におけるケアの意味					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
			50%	50%		試験期間における定期試験なし レポート50% 授業内発表50%				
[教員実務経験] 医療機関で看護師として長年勤務した経験のある教員が、睡眠・休息、人生の最終段階における基本的な知識と技術について講義する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護過程Ⅰ	講義	15	30	2	1	前期 (半期)	火曜	3限	必修	齊藤 晋助
[科目のねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。										
[科目の概要] 介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。										
[到達目標] 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画との関係性、チームとして介護過程を展開する意義や方法が理解できるようになる。										
[使用教科書] ①最新介護福祉士養成講座「介護過程」(中央法規) ②新版介護福祉教育研究会「楽しく学ぶ介護過程」(時潮社)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明					9	介護過程の意義と目的			
2	私たちの生活を理解しよう (自分の生活・高齢者の生活)					10	介護過程の全体像			
3	「かかわり」ってなんだろう① (かかわりの基本であるコミュニケーションを考える)					11	介護過程とICF			
4	「かかわり」ってなんだろう② (かかわりの基本であるコミュニケーションを考える)					12	介護過程の展開の理解 アセスメントの疑似体験(発表)			
5	「かかわり」ってなんだろう③(発表) (かかわりの基本であるコミュニケーションを考える)					13	生活支援における介護過程の意義			
6	「かかわり」ってなんだろう④ (相手の立場になって考える)					14	介護過程と事例検討			
7	利用者の願いや思いに気づく①					15	授業振り返りとまとめ			
8	利用者の願いや思いに気づく②(発表) (障害受容とは)					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
			50%	50%		試験期間における定期試験なし レポート50% 授業内発表50%				
[教員実務経験] 介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、個別援助計画を作成し、実際に支援を行ってきた教員が、施設における事例等も取り上げながら、介護過程の意義・目的、一連のプロセスについて講義する。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護過程Ⅱ	講義	15	30	2	1	後期 (半期)	木曜	2限	必修	児山 智志

[科目のねらい]

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

[科目の概要]

介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。

[到達目標]

介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画との関係性、チームとして介護過程を展開する意義や方法が理解できるようになる。

[使用教科書]

- ①最新介護福祉士養成講座「介護過程」(中央法規)
- ②新版介護福祉教育研究会「楽しく学ぶ介護過程」(時潮社)

[授業外学習]

- 教科書を読んで予習と復習を行うこと
- 専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	介護過程の展開(全体像)	9	介護計画の立案③ (事例グループ演習・カンファレンス)
2	アセスメント(情報収集)① (概説)	10	個別援助計画作成(グループ発表)
3	アセスメント(情報収集)② (事例演習)	11	介護の実施 評価
4	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)① (概説)	12	介護過程の実践的展開① (事例:個人ワーク)
5	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)② (事例演習)	13	介護過程の実践的展開② (事例:個人ワーク)
6	介護計画の立案① (概説)	14	介護過程の実践的展開③ (事例:個人ワーク)
7	介護計画の立案② (事例演習)	15	授業振り返りとまとめ
8	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)③ (事例グループ演習・カンファレンス)	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
			60%	20%	20%	

[教員実務経験]

現在、介護支援専門員として居宅介護支援センターに勤務している講師が、施設や居宅における事例等も取り上げながら、介護過程の意義・目的、一連のプロセスについて講義する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者	
介護過程Ⅲ	講義	15	30	2	2	前期 (半期)	木曜	2限	必修	長島 隆行	
[科目のねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。											
[科目の概要] 介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。											
[到達目標] ①介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画との関係性、チームとして介護過程を展開する意義や方法が理解できるようになる。 ②個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようになる。											
[使用教科書] 最新介護福祉士養成講座「介護過程」(中央法規)						[授業外学習] 教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること					
回数	授業内容					回数	授業内容				
1	介護過程Ⅰ、Ⅱの振り返り					9	介護過程の実践的展開(事例)				
2	介護過程の全体像					10	介護過程の実践的展開(事例)				
3	介護過程の実践的展開(事例)					11	介護過程の実践的展開(事例)				
4	介護過程の実践的展開(事例)					12	介護過程の実践的展開(事例)				
5	介護過程の実践的展開(事例)					13	介護過程の実践的展開(事例)				
6	介護過程の実践的展開(事例)					14	介護過程の実践的展開(事例)				
7	介護過程の実践的展開(事例)					15	授業振り返り(テスト)				
8	介護過程の実践的展開(事例)					特記 事項					
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準					
	100%					試験期間における定期試験または授業内での臨時試験あり。筆記試験100%					
[教員実務経験] 高齢者福祉施設の介護職員を経験し、居宅介護支援事業所にも勤務。現在は施設長として勤務している教員が、利用者の状況に応じた介護過程の展開を演習と講義にて教授する。											

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護過程Ⅳ	講義	15	30	2	2	後期 (半期)	水曜	2限	必修	小菅 晋也

[科目のねらい]

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

[科目の概要]

介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。

[到達目標]

- ①介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画との関係性、チームとして介護過程を展開する意義や方法が理解できるようになる。
- ②個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようになる。

[使用教科書]

最新介護福祉士養成講座「介護過程」(中央法規)

[授業外学習]

専門用語を理解できるように自己学習をすること

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション・自己紹介 授業内容の説明	9	知的障害の理解と支援のポイント
2	障害について簡単なおさらい	10	身体障害の理解と支援のポイント(視覚障害)
3	介護過程の意義・目的	11	身体障害の理解と支援のポイント (肢体不自由、言語・聴覚障害、内部障害)
4	介護過程の展開プロセス(アセスメント)	12	精神障害の理解と支援のポイント
5	介護過程の展開プロセス(計画立案)	13	定期試験対策
6	介護過程の展開プロセス(実施と評価)	14	定期試験
7	チームアプローチの基礎	15	レクリエーション(ボッチャ)
8	多職種連携と個別支援計画	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	100%	/	/	/	/	

[教員実務経験]

障害者支援施設、障害者グループホームで長年生活支援員として勤務し、主任を務める。現在は多機能型事業所で施設長を務めている講師が障害者の個別支援計画について講義をする。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護過程Ⅴ	講義	15	30	2	2	後期 (半期)	水曜	3.4限	必修	町田 齊藤 岡山

[科目のねらい]

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

[科目の概要]

介護過程では、介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。

[到達目標]

①個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようになる。

[使用教科書]

- ①配布資料
- ②各自のテーマに関連する文献

[授業外学習]

- 先行研究を調べること
- 各自のテーマに関連する文献を読むこと

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション 授業内容の説明	9	事例研究作成
2	事例研究テーマの作成①	10	事例研究作成
3	事例研究テーマの作成②	11	事例研究作成
4	事例研究作成	12	抄録作成
5	事例研究作成	13	抄録作成
6	事例研究作成	14	授業振り返りとまとめ
7	事例研究作成	15	事例研究発表会
8	事例研究作成	特記 事項	

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
					100%	試験期間における定期試験なし 事例研究課題100%

[教員実務経験]

高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、実際に実習で行った介護過程を事例研究を通して教授する。

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	講義	15	30	4	1	前期 (通年)	木曜	2限	必修	齊藤 晋助
[科目のねらい]										
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。										
[科目の概要]										
介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習とする。										
[到達目標]										
①介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながるようになる。										
②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。										
[使用教科書]						[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」 (中央法規)						教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明					9	実習目標の設定①			
2	介護総合演習の意義と目的					10	実習目標の設定②			
3	実習施設・事業などの理解					11	実習日誌作成①			
4	介護実習の意義と目的					12	実習日誌作成②			
5	施設見学（高齢者施設）					13	実習日誌作成③			
6	施設見学（障害者施設）					14	授業振り返りとまとめ 実習事後指導			
7	介護実習の流れと関係書類作成 (個人票・評価表の作成)					15	実習情報交換会			
8	実習ファイルの作成					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
					100%	試験期間における定期試験なし 課題100%				
[教員実務経験]										
介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、施設の実習指導を担当していた教員が、介護実践に必要な知識と技術を統合できるような実習及び介護観が形成できるように指導を行う。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	講義	15	30	4	1	後期 (通年)	水曜	3限	必修	齊藤 晋助
[科目のねらい]										
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。										
[科目の概要]										
介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習とする。										
[到達目標]										
①介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながるようになる。										
②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。										
[使用教科書]						[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」 (中央法規)						教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	関係書類作成・1段階実習振り返り					9	実習自己評価の書き方①			
2	実習ファイルの作成					10	実習自己評価の書き方②			
3	実習目標の設定①					11	実習におけるスーパービジョン			
4	実習目標の設定②（ロジックツリー）					12	実習帰校日指導			
5	実習目標の設定③（行動計画）					13	後期授業振り返りとまとめ 実習事後指導①（個人ワーク）			
6	実習日誌作成①					14	後期授業振り返りとまとめ 実習事後指導②（グループワーク）			
7	実習日誌作成②					15	事例研究発表会			
8	実習日誌作成③					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
					100%	試験期間における定期試験なし 課題100%				
[教員実務経験]										
介護福祉士として高齢者福祉施設に勤務し、施設の実習指導を担当していた教員が、介護実践に必要な知識と技術を統合できるような実習及び介護観が形成できるように指導を行う。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	講義	15	30	4	2	前期 (通年)	火曜	1限	必修	町田 晴美
[科目のねらい]										
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。										
[科目の概要]										
介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習とする。										
[到達目標]										
①介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながるようになる。										
②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。										
[使用教科書]						[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」 (中央法規)						教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	オリエンテーション 授業内容の説明					9	実習課題：評価			
2	1段階・2段階の振り返り (自己の課題の明確化)					10	実習日誌作成①			
3	介護実習の流れと関係書類作成 (個人票・評価表の作成)					11	実習日誌作成②			
4	実習ファイルの作成					12	実習帰校日指導			
5	実習目標の設定					13	実習帰校日指導			
6	実習課題：アセスメント					14	授業振り返りとまとめ 実習事後指導			
7	実習課題：個別援助計画					15	実習情報交換会			
8	実習課題：実施						特記 事項			
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
					100%	試験期間における定期試験なし 課題100%				
[教員実務経験]										
高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、介護実践に必要な知識と技術を統合できるような実習及び介護観が形成できるように指導を行う。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	講義	15	30	4	2	後期 (通年)	水曜	3限	必修	町田 晴美
[科目のねらい]										
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。										
[科目の概要]										
介護総合演習は、各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習とする。										
[到達目標]										
①介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解が深まるようにするとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながるようになる。										
②実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。										
[使用教科書]						[授業外学習]				
最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」 (中央法規)						教科書を読んで予習と復習を行うこと 専門用語を理解できるように自己学習をすること				
回数	授業内容					回数	授業内容			
1	3段階実習振り返り					9	実習事後指導			
2	関係書類作成					10	研究の意義と目的			
3	実習ファイルの作成					11	研究方法の理解①(量的研究)			
4	実習目標の設定					12	研究方法の理解②(質的研究)			
5	実習日誌作成					13	文献検索			
6	実習課題：アセスメント					14	倫理的配慮			
7	実習課題：個別援助計画					15	授業振り返りとまとめ			
8	実習帰校日指導					特記 事項				
評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準				
					100%	試験期間における定期試験なし 課題100%				
[教員実務経験]										
高齢者福祉施設の介護職員、生活相談員、介護支援専門員などの経験のある教員が、介護実践に必要な知識と技術を統合できるような実習及び介護観が形成できるように指導を行う。										

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護実習Ⅰ（1段階実習）	実習	/	40	2	1	前期 (通年)	/	/	必修	齊藤 晋助 町田 晴美

[科目のねらい]

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

[科目の概要]

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

[到達目標]

- ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。
- ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。
- ③対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	/	9	/
2	/	10	/
3	/	11	/
4	/	12	/
5	/	13	/
6	/	14	/
7	/	15	/
8	/	特記 事項	/

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	/	/	/	/	/	

[教員実務経験]

高齢者福祉施設の介護実習指導者として実習生にかかわり指導した経験がある教員が、実践の場での必要な知識や技術などについて施設と連携しながら生徒に指導する。（齊藤）

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護実習Ⅰ（2段階実習）	実習	/	80	2	1	後期 (通年)	/	/	必修	齊藤 晋助 町田 晴美

[科目のねらい]

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

[科目の概要]

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

[到達目標]

- ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。
- ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。
- ③対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	/	9	/
2	/	10	/
3	/	11	/
4	/	12	/
5	/	13	/
6	/	14	/
7	/	15	/
8	/	特記 事項	/

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	/	/	/	/	/	

[教員実務経験]

高齢者福祉施設の介護実習指導者として実習生にかかわり指導した経験がある教員が、実践の場での必要な知識や技術などについて施設と連携しながら生徒に指導する。（齊藤）

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護実習Ⅱ（3段階実習）	実習	/	200	7	2	前期 (通年)	/	/	必修	町田 晴美 齊藤 晋助

[科目のねらい]

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

[科目の概要]

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身につける。

[到達目標]

- ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。
- ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。
- ③対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	/	9	/
2	/	10	/
3	/	11	/
4	/	12	/
5	/	13	/
6	/	14	/
7	/	15	/
8	/	特記 事項	/

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	/	/	/	/	/	

[教員実務経験]

高齢者福祉施設の介護実習指導者として実習生にかかわり指導した経験がある教員が、実践の場での必要な知識や技術などについて施設と連携しながら生徒に指導する。（町田）

授業概要

科目名	形態	回数	時間	単位	年次	時期	曜日	時限	必修選択	授業担当者
介護実習Ⅱ（4段階実習）	実習	/	136	7	2	後期 (通年)	/	/	必修	町田 晴美 齊藤 晋助

[科目のねらい]

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

[科目の概要]

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身につける。

[到達目標]

- ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。
- ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。
- ③対象者の生活と地域とのかかわりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

回数	授業内容	回数	授業内容
1	/	9	/
2	/	10	/
3	/	11	/
4	/	12	/
5	/	13	/
6	/	14	/
7	/	15	/
8	/	特記 事項	/

評価 方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題	単位認定の方法及び基準
	/	/	/	/	/	

[教員実務経験]

高齢者福祉施設の介護実習指導者として実習生にかかわり指導した経験がある教員が、実践の場での必要な知識や技術などについて施設と連携しながら生徒に指導する。（町田）